

事業活動実績報告書

施設名	やくし幼稚園
教育理念	自ら考え行動する子どもたちの育成

事業の区分 (5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	英語に親しみながら、日本の文化に触れる
2 実施期間	令和 5年 4月 20日 ~ 令和 6年 3月 31日

3 取組概要	<p>(取組日) 令和5年 4月 20日 ~ 令和5年 4月 27日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>テーマ 数字、挨拶、色、花まつり、こいのぼり 基本表現 I like color.(好きな色の表現) 歌 Alphabet,Seven Steps,Hello,Good-Bye,Rainbow Song 最初は緊張した面持ちであったが、時間が経つにつれ、笑顔で英語楽しい！と過ごせるようになった。挨拶、アルファベット、数字、動詞に触れ、英語で過ごすことに慣れていってもらった。4月8日は花まつりであり、お釈迦様の誕生日を英語で祝うこともできた。</p>	
	<p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>テーマ 動物 基本表現 I like animals.(動物の言い方) 歌 BINGO Waking Walking  動物のテーマは子どもたちにとって興味深く、親しみやすいテーマであった。遠足をとりあげ、英語での動物の表現を楽しく触れていくことができた。</p>	
	<p>(取組日) 令和5年6月1日 ~ 令和5年 6月 29日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>テーマ 天気、梅雨 基本表現 It's (weather). How is the weather? 天気のいい方、どんな天気か質問できる 歌 Rain,Rain, Go Away  日本の雨期「梅雨」にちなんで、天気表現にふれた。天気は子どもたちにとっても身近なテーマのため、積極的に発言することにつながった。</p>	
	<p>(取組日) 令和5年 7月 13日 ~ 令和5年 7月 30日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>テーマ 形、七夕、盆踊り 基本表現 What's this? It's (shape). 形の言い方。 歌 Shape Song  七夕飾りに用いる折り紙や、画用紙でさまざまな形をしり、英語での表現に触れていった。盆踊りでは、円になって踊ることや、盆踊りの英語表現にも触れていった。</p>	

3 取組概要	<p>(取組日) 令和5年 9月 7日 ~ 令和5年 9月 14日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>テーマ 運動会、からだ、月見          基本表現 Touch your ( ).(体の部位の言い方)          歌 Head and Sholders</p> <p>運動会の季節を迎え、体を動かすことが多くなった子どもたちに意識的に体の部位について、触れていってもらった。また運動会は日本独自のイベントであること、運動会の練習でも体について意識しながら過ごせるように促した。</p>	
	<p>(取組日) 令和5年 10月 12日 ~ 令和5年 10月 26日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>テーマ 乗り物          基本表現 It's a ( car ).(乗り物の言い方)          歌 The Wheels on the Bus.</p> <p>乗り物は世界共通のものが多く、また子どもたちの身近なテーマであったため、取り組みをしやすいかった。バスのように英語と日本語での表現が類似しているものから、そうでないものまで幅広く触れることができた。</p>	
	<p>(取組日) 令和5年 11月 9日 ~ 令和5年 11月 16日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>テーマ 乗り物、果物、野菜          基本表現 Here you are. Thank you.          果物、野菜の表現の仕方、物を渡すときの言い方          歌: The wheels on the Bus Apples and Bananas</p> <p>勤労感謝の日にちなみ、以前触れた職業のなかで八百屋さんや青果店にスポットを当てる。野菜や果物は子どもたちにとって身近なもので取り組みやすい。</p>	
	<p>(取組日) 令和5年 12月 14日 ~ 令和5年12月 21日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>テーマ 正月準備、果物、野菜          基本表現 It's a ( ).          果物、野菜の表現の仕方、          歌: Apples and Bananas</p> <p>もうすぐお正月を迎えることに触れ、正月準備の中で、食べ物や果物に触れていく。英語でも osech(おせち料理)のようにそのままの表現でもよいことを知る良い機会となる。</p>	
	<p>(取組日) 令和6年 1月 18日 ~ 令和6年 1月 25日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>基本表現 I want to be -----.          「～になりたい」の言い方。          歌 The Muffin Man</p> <p>テーマは「職業」について。様々な職業を英語で知ることを目標とする。力士や歌舞伎役者など日本ならではの職業にも触れていく。</p>	
	<p>(取組日) 令和6年2月 1日 ~ 令和6年 2月 29日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>基本表現 I am wearing-----.          「～を着ています」の言い方。          歌 What are you wearing?</p> <p>衣類について触れていく。日常生活で着用しているアイテムを楽しみながら、表現をする。園内のひな人形についても観察し、日本の着物について知り、英語で表現してみる。</p>	

効果検証報告書

施設名	やくし幼稚園
教育理念	自ら考え行動する子どもたちの育成

事業の区分(5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	英語に親しみながら、日本の文化に触れる
2 事業概要	日本の文化に触れるカリキュラムを組み、英語に親しみながら日本文化や年中行事に触れる。

計画時	3 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 日本の文化に造詣のある日本語と英語のバイリンガルの外国人講師と日本人講師の2名 日本人の担任教諭、活動内容に応じて幼稚園教諭を補充する。 アクティビティを行える十分な広さの保育室、園庭
	事業後 3についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ----- 委託業者の協力も得て、年度途中からは、バイリンガルの講師2名での運営と行うことができた。2名の講師は、英語を母国語とし、人種もそれぞれ異なる人材で、園内に外国人の講師がいる環境を作ることができた。また子どもたちもそのことにすぐになれることができた。

計画時	4 事業のねらい	英語を身につけるだけでなく、子どもたちが親しんでいる日本の文化や慣習、年中行事を知り、英語でも表現することで幼いころからグローバルな人材の育成を目指す。英語での表現を知ること、日本語での気づきや興味関心を深めるきっかけとなる。
	事業後 4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ----- 子どもたちは英語に対して興味関心が大きく、毎回のレッスンを楽しみにしていた。英語を身につけるといっても、日常的に園児同士で英語でのコミュニケーションをとるまでにはならないので、レッスンの中で、ロールプレイやゲームなどで積極的に発言や聞き取りができるように工夫していく必要がある。

事業後	5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 講師(外国人、日本人)の確保 教材の選定(やくし幼稚園独自のカリキュラム設定) 梅雨、七夕、盆踊り、月見、七五三、正月、節分といった日本の文化や慣習、年中行事を知り、英語での表現を身につけることによって、日本と世界の垣根を取り払う。毎週木曜日に活動を行い、1クラスずつの少人数レッスンを行う。 参観にを設け、園児だけでなく、保護者などにも取り組みを周知する。
	5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ----- 外国人講師も日本滞在歴が長いので、日本の伝統的文化に親しみを持っており、子どもたちとの関わりで不自然なことはなかった。日常的に英語圏の文化として親しまれているものも無視はしないが、特に触れていくことはせず、日本文化に特化したレッスンは興味深かった。今後もさらに日本文化の内容を取り入れていきたい。

計画時	6 環境構成	<p>多目的スペースの確保          日本文化、慣習、年中行事の案内パネル、カードなどの展示物          振り返りができるワークブックの準備          カリキュラムに応じた具体物などの教材          室内だけでなく戸外での活動も積極的に行う。</p>
	事業後	<p>6についての効果・検証</p> <p>事業実績から推測される効果や改善点等</p> <p>対象が年長児であったため、日本の文化や、慣習については基礎的な知識があったため、日本語と英語での表現の違いに興味関心を持っていた。バイリンガルの講師は臨機応変に日本語でのサポートもしてくれていたため、英語が全く分からず困ったり、活動に消極的になる園児はいなかった。十分な広さの保育室を確保できたため、教材を用いれば屋外での活動はなくても効果的であった。</p>
7	期待される効果 児童の姿	<p>取組を通じて期待される児童の姿や効果等</p> <p>昨今、習い事などで英語に親しむ子供たちは多いが、自分が生まれ育っている日本の文化や、巻き湯、年中行事などに親しむことで、他者に日本のことを伝えようという意欲が芽生える。          現代の欧米化した生活において、存在が薄くなっている日本の伝統文化を改めて知る機会となり、英語だけでなく日本語でも知ることができる。          幼児期に身につけたものはやがて自身の常識となり次の世代は伝えていくきっかけとなる。</p>
	事業後	<p>7についての効果・検証</p> <p>事業実績から推測される効果や改善点等</p> <p>進級当初から子どもたちは英語の時間をとても楽しみにしていた。カリキュラムも無理のない内容なので、楽しみながら英語や日本文化に触れていることができた。また年度が進むに連れて積み重なった知識もあるため、それを踏まえた応用もすることができた。「英語」＝「外国語」という構図がまだない段階での取り組みはとても良い。</p>
8	効果検証 総括	<p>事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて</p> <p>どの園児でも楽しめるカリキュラムを組み立てていたため、外国語である英語に対しては、特に毛嫌いや、消極的な園児はいなかった。毎回の英語の時間を楽しみにする様子がうかがえた。          まずは日本語を身につけてからの日本の文化の習得なので、年長児を対象とするのは良かった。年齢が低くなると、英語と日本の文化の知識の習得は難しいかも知れない。よって、今後も年長児を対象にいていくことがふさわしいと考える。</p>